

平成26年度における主な変更点

① 基盤研究（B）及び基盤研究（C）の審査区分として「特設分野研究」を新たに設けました。

「特設分野研究」は、審査希望分野の分類表である「系・分野・分科・細目表」（別表を含む）とは別に新たに設けられた審査区分です。

未開のまま残された重要な分野、技術の長足な進歩によって生まれつつある分野、分野横断的な研究から生まれることが期待される分野を対象として、学術コミュニティからの要望や最新の学術動向等を踏まえて、日本学術振興会の学術システム研究センターが候補分野を提案し、文部科学省の科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会において設定されるものです。

平成26年度公募では、以下の3分野が設定されました。

- ・ネオ・ジェロントロジー
- ・連携探索型数理科学
- ・食料循環研究

② 「系・分野・分科・細目表」を一部変更しました。

文部科学省の科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会において審議した結果、以下のとおり変更しました。

1) 分野「総合人文社会」

- ・分科「観光学」、細目「観光学」を追加しました。

2) 分野「医歯薬学」

- ・分科「境界医学」、細目「医学物理学・放射線技術学」を追加しました。

※上記細目の追加以外に、キーワードの見直しやキーワードによる分割を行いました。

③ 日本学術振興会特別研究員（SPD・PD・RPD）の科研費応募に関する制限を緩和しました。

日本学術振興会特別研究員（SPD・PD・RPD）については、特別研

究員奨励費以外の科研費研究種目への応募が認められておりませんでした
が、文部科学省の科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会において議論
が行われ、日本学術振興会特別研究員（S P D・P D・R P D）が受入研究
機関において応募資格を得た場合には、平成26年度公募から以下の研究種
目への応募が可能となりました。

- ・新学術領域研究（研究領域提案型）の公募研究
- ・基盤研究（B・C）
- ・挑戦的萌芽研究
- ・若手研究（A・B）